



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2008

7

No.439



平 和

コリンズ神父

夏が近づいてくると、日本では「平和」という言葉を耳にする機会が増えます。

テアド・デ・シャル神父（イエズス会）は、第一次世界大戦中、「戦争の真ん中に平和をみつけた。」と言いました。「平和」とは何でしょうか？社会的には、戦争がない、生活が貧困や病気等に脅かされていない、それを平和と呼ぶのでしょうか。しかし本当の平和はそういった外面的なことではなく、内面的なことであると思います。個人の基準によって、「平和」が意味するところも異なってくるでしょう。人の心の中の平和をみつけるのは難しい。これは実に政治的な平和をみつけるよりも難しいことです。

キリストに出会った我々キリスト者には、キリストがいつも共にいてくださるという平和をいただいています。しかし、この信仰による平和のうちにあるからといって、自分が正しい、だからそうではない相手を否定するということはできません。自分と同じではない平和にある相手を否定するなら、そこにもう平和はありません。自分の平和が相手の平和であるとは限らないのです。

若かりし頃、キリスト教こそ全てと思っていた私は、日本に派遣されて、日本人と知り合い、そうではない人々がいること、そうではない生活があることを知りました。そして、それも素敵なものでした。ナザレのイエスは、12人の弟子を派遣するにあたり、イスラエルにのみ福音を述べ伝えるよう弟子たちにお命じになりました（マタイ 10：5）が、復活させられたイエスは弟子たちを全世界に派遣されます（マタイ 28：19）。神のひとり子であるイエスでさえ、成長の余地があったといえるでしょう。私達はなおさらのことです。内面的な自分の平和を押しつけるのではなく、相手の存在、考え方の全てを尊重し、認める。ひいてはそれが世界の平和につながっていくことになるのではないのでしょうか。

この夏、あなたに平和がみつかりますように……。



信徒の教会づくり

私たちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーです。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見の交換の場になれば、と願っています。

教会報への原稿依頼があつて、少しイヤ大いに当惑した。投稿しても読んでもらえそうにないし、面白い物語も、ためになる話も出来そうもない。思案の結果、テーマに沿って「信徒の教会づくり」を考えてみた。

1. われながら、「何で教会に来ているのやろ？」

教会でよくお見かけする熱心な方たちに「何で教会に来ているのか？」と聞いてみました。答えはいろいろです。音楽に惹かれた人、お友達に会うのが楽しみな人、週に一回来ないと落ち着かないとか、理由は説明できないけど習慣で、などなど。わたしも、使徒行録の「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」姿には、はるかに離れているけど教会に来るのは楽しみである。知らない土地でも教会があれば一寸覗いていこうかと思ってしまう。良く考えてみると、このように教会を覗いてみようかとか訪問してみようという思いが湧くときは、自分の意思ではなくて神様の手にそっと背中を押されて知らない間に教会に入っている時のほうが多いように思う。一番最初の洗礼からしてそうだ。わけが分かっていたわけではない、神様の導くままに流されてきたような感じだ。あんまり理屈を並べたような所ではなく、我が家のような安らぎのある所で、平気で居れるところが教会なのだと思う。

2. そういえば「信徒ってなんやろか？」

入社試験も入学試験もないし、誰でもいらっしゃい。「私が来たのは、正しい人を招くためではなく、罪びとを招くためである」にホッとして大きな顔をして甘えているわたし。時々「主よ、主よというものがみな天の国に入るのではない」と聞いてドキッとす。あわててミサに参加して、少しは親孝行をしなければと神父様に追悼ミサをお願いしたりする。「祈りなさい」と言われて「さて、どうやって祈るのか？」「お願いばかりやな」「気にはなるけど、お祈りというといつも気は散るし」……。これでも信徒なのやろうか。たった一回の洗礼で済むんやろか？

ぐずぐず梅雨の空のように晴れ間のない心を「つながっていなさい」にすがって、「あなた方は世の光である」に励まされて、何とか信心を保っているわたし。そんな私の背中をそっと押してくださる神様がいます。そう信じられる幸せ。結局、「神様は居る」と神様を頼りにしている頼りない人の集まりなのか。

3. 結局「どうすりゃいいの？」

私の洗礼番号は182番で、六甲教会が誕生した翌年1949年に受洗した。だから、その頃は毎年200人近くの人が洗礼を受けていたらしい。神父さんも5カ国以上の神父さんが司祭館におられた。以来60年の間に司祭も信徒も高齢化して三日月会が中心的存在になりつつある。これから、10年か20年したらお葬式と追悼ミサが大忙しになって、長峰墓地も賑わうことだろう。誰が洗礼を受け、入門講座を受け持つのだろうか？ 効果のない「召命の祈り」より、皆で「司祭の延命の祈り」をして神父様方に頑張ってもらおうなどという悪い冗談を聞き流しに出来ない状況だ。結局頼りない信徒が神様頼りにみんなで来たい教会であり続けられるよう考えるより仕方がない。先のことはよく分からないし、教えてくれる人も居ない。誰かの言うようにすれば良いわけではない。自分たちで一番良い方法を考えて一緒に力を合わせることにしか道はない。そのとききっと神様は背中を押してくださる。

(藤原)

教会の心臓にも収縮と拡張

司祭の数が少なくなったり、小さな教会が合併したりすることがあっちこちの教区にみられます。小教区の在り方を再検討する動きもあり、「合併」や「共同司牧」という言葉をよく耳にします。

確かに、信徒と司牧者の数を念頭においたうえで小教区の配置を再検討する必要があるでしょうが、「合併への動き」とともに「分散への動き」も必要のように思われます。港のような大きな教会も小さな船に例えられるのような集いも互いに必要とされます。

心臓には「収縮」と「拡張」という二つの大事な運動があります。「収縮」だけではなく、両方の運動があってはじめて血液が流れるわけです。教会には、「小教区の配置、小教区への所属」という「求心的」な側面がありますが、同時に福音宣教に向けて外へ散っていく「遠心的」な運動も欠かせないのです。両方の運動を生かすためには小教区や所属という壁を超えた形での教会づくりを促進しなければならないでしょう。

「二人または三人がわたしの名によって集まる所には、わたしもその中にいる」と、イエスが言われました（マタイ18, 20）。この言葉を原動力にして、多くの所で信徒が指導する小共同体（機構の言葉で言えば「支部」と言えるかもしれません）が生まれて行くことが望ましいです。キリシタン時代にならって、一人の司牧者が多くの支部を回り、各支部に信徒の責任者がいて、祈りと事前事業にかかわっていくような教会づくりの方法を再発見しなければならないと思います（川村信三、「16世紀日本におけるヨーロッパ・キリスト教信徒組織の導入」、『カトリック研究』47号、1-57ページ参照）。

そのためにも、神学生や教会奉仕者の養成に力を入れなければならないでしょう。現代の教会における諸奉仕職を見なおし、信徒が司牧と福音宣教に積極的にかかわるようにしたいものです。日本の教会は「神父中心」になりすぎています。しかし、教会は「神父を囲むもの」ではなく、キリストを中心にする集いです。「太郎神父」は「次郎求道者」に洗礼を受けましたが、次郎は「太郎教」に入ったのではなく、「キリスト道」の信者になったのです。人がイエスの福音に接するように道案内する者が助け手の役割を担っていますが、「イエスはキリストである」ということは外部から人に教えられません。いのちの源に気づいて、イエスこそキリストである即ち希望の秘訣だとありがたく思えるようになりたいものです。
(ホアン・マシア神父)



主任司祭の地平線

7月28日（月）～30日（水）の2泊3日、広島教区司教館において、イエズス会の「教会フォーラム」が開かれます。各地からイエズス会員約50名と教区司祭・シスター・信徒を合わせて計61名が集まり、これからの10年を展望し、教会の在り方・使命・目標・優先課題などを語り合います。具体的には、①山口・島根地区にある18教会が「司祭・信徒の継続的な養成」、②六甲教会が「信徒奉仕職としての聖体奉仕（病者訪問を含む）、集会祭儀、入門講座・結婚セミナーなどの宣教」、③東京のイグナチオ教会が「心を病む人々の世話、外国人との共働共生」について、各々が担当し発表します。参加者は質疑応答する時間を充分にもち、最終的にはその場で結成される委員会がイエズス会管区長への提言を検討します。10年後にはイエズス会員の大幅な減少が予測されるという不安もありますが、「主の教会」が複雑多様な現代社会の中で“救いの福音”を告げ知らせていく事が出来るように、聖霊の導きと助けを祈りたいと思います。



みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

オルガンっていろいろあるの？

元来、オルガンという言葉はギリシャ語の“organon”という言葉から出ています。これは学問的研究の道具、または機関を意味するものでした。そこから出発し、論理学・道具・生物の器官、そして楽器にも使われるようになりました。

皆さんはオルガンという言葉からどんなものを思い浮かべますか？

六甲教会聖堂にある電子オルガン、最近小聖堂に入れた足踏みオルガン、それとも海外旅行の折に教会で見かけたパイプオルガンでしょうか。パイプオルガンは近隣でも、松蔭女子大学のチャペル、神港教会、または玉造の大聖堂等にもありますね。

日本語で楽器を指して“オルガン”という時には、上記の3つのもの全てを指して使われますが、英語（organ）・ドイツ語（Orgel）ではパイプオルガンのみを意味します。足踏みオルガンはリードオルガン、ハルモニウム等と言われるもので、電子オルガンは電氣的発振回路を持つものです。（ Hammondオルガン、エレクトーンなど各社ごとの名前と呼ばれることが多いです。）

それでは、“オルガン”とはそもそもどういうものなのでしょうか？ パイプ 2000 本や、ストップ 30 個などという言葉に耳にします。とても難しそうに感じますが、作りは意外に単純で、パイプ 2000 本なら、金属や木で出来た笛を 2000 本並べたようなものです。そのパイプにストップと鍵盤の2カ所のふたを開け、ふいごから送られた空気が通ると音が出ます。ふいごは息をする肺、鍵盤はリコーダーの指穴、パイプはリコーダーの筒です。つまり、管楽器でもあり人間の声に最も近い楽器でもあるのです。小さいものでは、笛が約 36 本、鍵盤も 36 個（3 オクターブ）あり、片手でふいごを押しながら演奏することが出来ます。セシリアの聖画等によく描かれています。大きな楽器では、一つの鍵盤を押しただけで 50 本ほどの笛に一度に空気を送ることが出来ます。そうして楽器から出る音が、建築物の中の空気・壁・天井等を振動させて、まるで建物自体が楽器になってしまうようです。

足踏みオルガンは、足でペダルを踏むことによりふいごに空気を貯めます。その空気はひとつひとつの鍵盤によってやはり弁が開閉され、リードというものが振動して音が出ます。ハーモニカと同様の原理です。

最後に電子オルガンです。電子オルガンの裏蓋を開けたところをご覧になったことはありませんか？ コンピュータの基板のようなものがいくつも並んでいます。昔の電子オルガンは電氣的に音を作っていましたが、最近（この 10 年ほど）はヨーロッパの著名なオルガンの音をサンプリング、デジタル化し、スピーカーを通して再現する方式になっています。各メーカーはその技術を競って、出来る限り本物のオルガンに近い音を再現しようとしています。オルガンの音の出始めに少し入る風音や、本物のオルガンにある小さな調律の狂い等まで真似して再現できるものもあります。しかし、スピーカーを通して再現するので、空気の振動や、笛一本一本の小さな音を聖堂全体に伝えることは困難で、あくまでも本物ではありません。また、電気製品であるためコンピュータ同様に寿命があります。10 年を超えると修理部品の在庫がなくなり、それでもまだ修理しながらだましまし使っていくのが現状です。

今回は様々なオルガンの違いについて書いてみました。六甲教会聖堂もそろそろ新しいオルガンの購入について考えていかななくてはならない時期です。音楽には言葉と同様、祈りを支える大切な役割があります。私たちの教会にはどんな目的でどんな楽器が必要でしょうか？ 少しずつみんなで勉強し考えていきたいと思っています。

（清水）

婦人会遠足 5月23日(金)

5月23日、婦人会のバスツアーに参加させて頂きました。約50名の参加者は1台のバスに乗車、すっかり夏めく山々を眺めながら快走。予定通り龍野の教会に到着。真新しいグリーン教会、こじんまりした聖堂に入り、安芸神父の司式でミサをあげて頂きました。

ミサ後、小高い丘の上にある「赤とんぼ荘」にバスで向かいました。赤とんぼ荘からは町が一望できます。揖保川を挟んで広がる町は遠くに小さい山が見えるばかりで、ゆったりした気分させてくれます。

龍野は童謡「赤とんぼ」の歌を作詞した三木露風の生まれ育ったことで有名。町のマンホールの鉄のふたにはとんぼが画かれていたり、歌が流れている場所もあります。

食後、ボランティアのガイドさんの案内で古い町並みの残る通りを歩きました。町に流れる小さな川は運河のように美しく整備され、水を大切にしている町の人々の気持ちがそこにも表れていると思いました。市指定文化財でお茶室や庭園、池の美しい「聚遠亭」、高い山の上に築かれた城の跡といわれる山を横に見ながら、うすくち醤油資料館、如来寺付近を見学。町の歴史や、町の人々が大切にしてきた文人のお話など、同じ兵庫県に住む者として、町の人になったような気持ちで聞きました。

バスが待つ広場に出た時の風景はまた素晴らしく、さっき山の上から見た町の風景より大きく、ゆうゆうと流れる揖保川を見ていると、今日一日大きなお恵みを頂いたことを沢山感じ、感謝の気持ちで龍野を後にして六甲教会への帰路に着きました。

本当に楽しい幸せいっぱいの日でした。

(阿部)

祈りの道場 5月24日(土)

私は、信者ではありませんが、中学時代、英先生の授業を受けた教え子として祈りの道場に参加させて頂きました。沈黙を5時間続けると聞いていたので辛いかなと思いましたが、先生のお話もあり、面談の時間も設けていただけだったのでリラックスして過ごせました。

その中で、私は、信じることは強いことだと感じました。

殉教された方たちの、どんなに苦痛を味わおうと、自分の信じる気持ちは絶対に譲らないという意志。死に代えてでも、貫く信念。そのような生き方ができるのは、信じることがあるからだと思います。

私は、何かを信じて生きています。それが、何なのか、強いのか、まだわかりません。これからの出会いや出来事を通して、自分や、自分を越えるものを見つめ一つ一つ進んでいきます。

沈黙の時間や、この文章を書く機会を与えていただき、自分を問い直すことができました。ありがとうございました。感謝いたします。

(三澤)

東ブロック主催「子供ウォークラリー」 5月31日(土)

東ブロックウォークラリーについて

5月31日(土)に、中央教会・住吉教会・六甲教会の3教会合同のウォークラリーがありました。当日の子ども参加者は100名近くでした。

住吉教会に集合、10班に分かれて六甲教会まで歩き、途中のポイントなどで課題をクリアして進んでいきました。課題はキャンプでよく歌う「ロックマイソー」の歌詞と振り付けを覚えたり、班のメンバーの名前を覚えたり…。小雨の中、みんな元気いっぱいでした。

そして、到着した六甲教会にて昼食。料理は子どもたちの大好きなカレーライスでした。これで、ちょっとくたびれていた子どもたちもまたまた元気になりました。

六甲教会からバスに乗って布引まで行き、そこから中央教会まで歩きました。中央教会に着いてからは休憩した後、各自で遊び、最後は聖堂にて集会。元気に全員で「ロックマイソー」などを歌いました。そして、オマリー神父さんのお話を聞いて解散しました。

今回の東ブロックウォークラリーは、初めての試みでした。最初は「子どもをメインにしたイベントをしませんか」という提案があり、3教会それぞれのリーダー代表が集まりました。その時のリーダー達は、正直なところ、この提案に対してあまり乗り気ではありませんでした。

「何か新しいことをする」ということは、魅力的であると同時に、必ず困難さがあります。創る側にいくら強い想いがあったとしても、それを実行するためには周囲の理解や協力といったものが不可欠です。そして今回、「ウォークラリーをしよう」ということで一致しました。これは、今から考えてみても大きなチャレンジでした。3教会を半日足らずで巡るのです。その際のコースはどうする？ 安全面をいかに確保するか？ 中継ポイントは？ 大人数の食事は？ それ以外にも細かい点を挙げればきりが無いぐらいの問題点があったように思います。

それでも、ふたを開けてみると、とてもいいものになりました。子どもたちもみんな仲良く歩くことができました。これは、支えてくださった全ての方々のおかげだと思います。大人の方々には、ポイントに立っていただいたり、美味しいカレーを作っていただいたり、他にも様々なことで本当に感謝しています。ありがとうございました。

教会の中には様々なグループなり、立場の人がいます。それが完全に一致するということは無理かもしれません。でも、「バラバラのままつながる」ということは可能で、しかもそれはとても大きなエネルギーになる、ということを今回の件で実感させられました。

その結果が、今回のウォークラリーでの子どもたちの素敵な笑顔だったと思います。この「つながり」を大切にしながら、これからの歩みに弾みをつけていきたいと考えています。

何か新しいことをする時に集まって一緒にやれる人達が本当の仲間なのだと思います。今回はそういった意味で大きな喜びがありました。これからの教会、子どもたちのためにも、今後ともよろしく願います。

最後に、オマリー神父さんのお話で印象に残った言葉を紹介して終わります。

「一緒にいれば、迷わない。」

(教会学校リーダー 吉村)



住吉教会に集合し、六甲教会に向けて出発。



途中ポイントではクイズや課題をこなして、歩け、歩け。



六甲教会ではカレーの昼食。

ウォークラリーにご協力有り難うございました

5月31日、快晴とはいきませんでしたけれど、初めての3教会合同の、子供たちのイベントが実現しました。教会学校のスタッフだけでなく、たくさんの教会の方々の協力を得て、初めて成功裏に実行出来たと思います。

私は、ポイントの担当で、雨の中、石屋川公園で待ち受けていました。待ちくたびれた頃、子供たちが、その日初めて結成された3教会混成の班でやってきました。私のポイントでは、班の仲間の名前を全部覚えてくる、と言うのが課題でした。リーダーも含めてです。声をそろえて、覚えてたの友だちの名前（ニックネームでした）を言う、時には叫ぶ子供たちの元気なこと。そして、昔若かったのか、ずーっと若いのかわかりませんが、いろいろなリーダー、保護者、それから、神父様等の楽しそうな様子がとても印象的でした。歩くコースには、絶対安全とはいえない場所もあったと思いますが、あたたかいたくさんの眼に見守られて、きっと、子供たちも本当に楽しいウォーキングができたことでしょう。3ヶ月前まで、教会学校の子どもだった中学生のお兄さん、お姉さんたちもスタッフとしてがんばってくれました。

社会活動部、壮年会、婦人会などたくさんの方々の、ご協力に、心から感謝いたします。次の時代を担う大切な子供たちにとって、かけがえのない良い思い出を作れたということは、本当に、よい心の財産になると思います。有り難うございました。またこういう機会がありましたら、よろしくお願いたします。

(教会学校 阿部)

ウォークラリーで楽しかったことは、みんなで協力して、友達が増えたことです。「ロックマイソール」を歌ったり、おどったりして、おもしろかったです。

班長として、班のみんなをまとめるのが大変だったけど、みんなが笑顔だったのがよかったです。またやりたいです。

(片山)



その後最終目的の神戸中央教会へ。

今日、ウォークラリーがありました。

最初は中央教会まで歩けるかな？と心配でしたが、すみよし教会について歩き始めたら楽しかったのがんばれると思ってみんなで歩いていました。しかも1番に六甲教会につけるという自信がついたので、よりわくわくしてきました。そして阪急のせんろぞいまでくると、ちょっとしんどくなり始めました。だけど、がんばって六甲教会までいきました。おいしいカレーをもらってふっかつしました。バスにのってまたちょっと歩いて、ゴールの中央教会です。一番につきました。チュウペットももらえました。そして、遊んで、ロックマイソールを歌いながら聖堂に入っていました。みんなで歌を歌ったりしてかく教会学校ごとでかいさんしました。

今日は一日とってもとっても楽しかったです。また行きたいです。

(多田)



オマリー神父のお話

私は、ウォークラリーで「つながり」を大切にできました。たとえば、みんな（いろんな人）と話せし、そういう事からつながりが大切にできたと思いました。とく別な行事だけでなく、ふだんの教会学校でも生かしていきたいです。

ウォークラリーでは楽しくできたし、つながりは協力から生まれるということも分かりました。なので、今回の行事はとてもよかったですと思いました。

(清水)

～・～・～ 各部紹介 ～・～・～

養 成 部

内山

養成部のプログラムを支える三本の柱があります。「1.平和、2.知恵 3.祈り」です。

1) 『平和をもたらす人は幸いである』 (フランシスコ会訳マタイ5:9)

阪急六甲駅から教会へ来るには、神港教会の前を通ってきます。どんな方達がいらっしゃるのかな？ 改革派と云えばカルヴァンの流れを汲む正統派、カトリックは嫌いだろうな。でも「主の祈り」は絶対に祈っている。ならば此処の方々も主にある兄弟姉妹だ。8月の平和旬間のなかの一時間だけ、すべての隔たりを取り払って一緒に「アーメン」と祈れないだろうか。一時間が無理なら「主の祈り」だけでもいい。カトリックとかプロテスタントとか云わないで、ただ主の僕として祈りたい。その時私達の心に平和が訪れ、六甲の地に「主の御心が現れる」。

この思いは消し去ることが出来ず勇気を出して、まず神港教会を訪れ、聖書教会、ルーテル教会と六甲教会の思いを告げに歩きました。どの教会の先生方も「喜んで共に祈りましょう」と四教会で始めた合同礼拝も昨年は聖公会も参加して下さいました。人間の思いを遥かに超えて働かれる主の恵みを感謝します。プロテスタントの兄弟姉妹と共に御名を賛美するのはなんと素晴らしいこと！「見よ。兄弟と共に座っている。なんと云う恵み、なんと云う喜び」(詩133:1)

2) 『主を畏れることは知恵のはじめである』 (新共同訳シラ 1:14)

神様だけを頼って生きることは、この世で一番勇気のいる事のように思います。人間は他人から賞賛され、ほめられる事を大事な事と考えるのが常です。自分の能力や才能が他人より少しでも優れている事に注目して欲しいと願っています。人々が自分の資質に注目せず、正統に評価してくれないと、多かれ少なかれ失望し、無視されたと感じ込むのが普通です。他人から無視されたままで平然としている為には、強い信仰の勇気を必要とします。イエスは「高ぶる者は低くされ」(マタイ23:12)と云われました。無視され、認められず、誤解され、のしられながらもユダヤ人の指導者達におもねる事なく、大衆の人気を得ようともイエスは決してなさいませんでした。イエスは全生涯を通して父なる神様を信頼しきった唯一のお方です。父なる神の導きとみ心に徹底的に生涯を貫かれた唯一のお方です。この生きざまこそ信仰です。信仰は知識では得られません。ただ聖霊の導きを祈り求める事だけが人間に出来る事です。神の定められた道を、疑いをもたず死ぬ日まで歩んで行くのは、キリスト者の大きな喜びとなります。神様のみ旨に従うより自分で考えて自分の道を歩むようになり、自分の考えの方が神様の計画より賢明であると考え人間は悲しいです。

主を畏れ尊ぶ事からすべては始まるのです。旧約の昔から命がけで神様のみ旨を語って来た預言者の言葉を、雨宮慧神父様に解き明かしていただくプログラムが年に一度もたれています。

今年は9月20日(土)と21日(日)です。

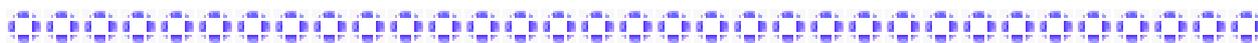
3) 『沈黙して主に向かい主を待ち焦がれよ』 (新共同訳詩37:7)

今の世の中は本当に騒々しく、忙しく、目まぐるしく、もっともっとと欲張りに溢れています。空騒ぎの騒音に溢れ、静かになる事の無い時代に対して「主の前に静まれ、沈黙して主に向かえ」と聖書は語ります。神様は嵐の中にも、地震の中にも、火の中にもおられず、静かにささやく風の中におられました。(列王上19:11-12) この世の仕事と教会の奉仕にあくせく働き、疲れきっている現代のクリスチャンに向かって、「沈黙して、主に向かいなさい。そこにあなたの必要とする静けさ

がある」と主はささやかれます。沈黙の中に静まる事がなければ、神様の声を聞くことは出来ません。静けさの中で、罪のあがないとなられる主の十字架の苦しみと死、そして復活の栄光を主は語って下さいます。一度この語りかけを聞いたならば、私の心は平安と確信と勇気に満たされるでしょう。静まり、祈りましょう。これを望んで、年に2～3回英神父様にご指導戴いて「祈りの道場」を開きます。一人でも多くの方が主の語りかけを心に深く受け止めて下さる様祈っています。次回の「祈りの道場」は10月10日（金）です。



以上養成部の基調とする三本柱についてご理解下さったでしょうか。その他「聖書朗読リレー」、「講演会」、「図書室」と、養成部の仕事はありますが、どれにもこの三本柱が生きているか、確認しながらすすめております。



各部だより

☞壮年会・婦人会合同例会

昨年に引き続き壮年会・婦人会合同例会を下記の通り開催します。

午前中はイタリア美術にたっぷり浸り、お昼からはバーベキュー大会でおおいに語り盛り上がりましょう。皆さまふるってご参加下さい。また、壮年会・婦人会以外の方々の参加、大歓迎です。

講演会

日時・場所： 7月27日(日)10:30～12:00
イグナチオホール

講演内容： 「イタリア美術とキリスト教」
講師 柁木久和氏(六甲教会信徒)

バーベキュー大会

日時・場所： 7月27日(日)12:30～14:30
教会駐車場

会費： 500円

☞婦人会

7月4日(金) 初金ミサ 10時

※ 7月4日の例会はありません。

☞三日月会

例会 7月と8月は例会を休会します。

喫茶 7月6日9時ミサ後～13:00

於 イグナチオホール

☞青年会

7月13日(日) 金さんの食事会
13:00に第5会議室集合

定例会 7月27日(日)12:30～

内容：聖書の分ち合い、行事の打ち合わせ等
場所：第5会議室

※ 初めての方も気楽にご参加ください。

☞典礼部

○ ミサ中に携帯電話がなる場合がありますので、電源はお切り下さい。

○ 7月より、聖体奉仕者の方が一人の場合(土曜日19時と日曜日7時のミサ等)、チボリュウムは、一つだけになります。

○ 聖体奉仕者の方は、ホスチアの奉納が終わるとそのまま祭壇の前にとどまり、献金の奉納者と共に礼をして席に戻るようお願いいたします。

☞社会活動部

シナピス神戸定例会

7月27日(日)14:00 六甲教会第1・2会議室

連絡会

7月4日(金) 10時初金ミサ後、開催予定

<お知らせ>

各部からの活動の連絡ですが、広く信徒の皆さんに呼びかける内容の記事をここに記載いたします。教会活動の参考になさって下さい。

【社会活動部より】

7 / 2(水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室)

♪どなたでも参加ご自由です。

7 / 12(土)10:00 炊き出し(イグナチオホールお台所)

♪小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達のお話し相手だけでもOKです。

7 / 17(木)14:00 ベタニアの集い(イグナチオホール)

♪聖体拝領式&茶話会を開催。奇数月第3木曜日開催。

7 / 20(日)9時ミサ後 手作りコーナー(イグナチオホール)

♪お弁当・食品・手作り小物等の販売

中国四川省大震災&ミャンマーサイクロン義援金報告

ご協力ありがとうございました。

神戸地区平和旬間行事

写真展「難民たちは今～カクマ難民キャンプからの報告」開催

ケニア・スーダン国境付近の難民キャンプで撮影した子どもたちの写真など。 撮影・片柳弘史助祭
“過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである” 教皇ヨハネ・パウロ2世
広島での法王によるこの言葉がきっかけで始まった、カトリック平和旬間。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。今も、世界中で繰り返されている戦争！力のない者や、子供たちがより虐げられている現実。少し、思い出して下さい。共に祈って下さい。明日への平和を！

開催場所：イグナチオホール

開催日時：7月6日(日)～20日(日)

【図書室より】

図書貸出期間の変更

図書の貸出期間を従来の2週間から、3週間に延長いたします。皆さまのより一層のご利用をお待ちしています。CD等も同じ扱いです。

尚、長期間図書室に戻ってこない本が少なからずあります。ぜひお手元をご確認いただき、もしありましたら、図書室の返却箱にお入れください。

「ペトロ岐部 他187名列福」 記念講演会

テーマ：「日本人とキリスト教の出会い」

(日本人が救いを求めていた時代)

講師：文学博士 五野井 隆史先生

(聖トマス大学大学院教授・東京大学名誉教授)

日時：2008年7月20日(日)午後2時より

会場：カトリック六甲教会 大聖堂

聴講料：無 料

応仁の乱のあと、都は荒れ果て、混乱と貧困にあえぐ人々にザビエルの告げる福音はどのように響いたのでしょうか。

その後、キリシタン禁制の高札が撤去されるまで、迫害の荒波の中で300年の間、信仰を守り、継承した勇氣は何処から湧き出たのでしょうか。

信長、秀吉、家康と激しく遷り変わる時勢にある日本を、宣教師達はどのように捉え、評価していたのでしょうか。

キリスト教の低迷が危惧されている今、400年前にキリスト教と出会った人々の息吹を学び、感じ取りたいと思います。

沢山の方々のご来場をお待ち致します。

7月の予定

		教会暦	教会行事
3	木	聖トマ使徒	
4	金		初金 7:00 10:00 ミサ
5	土		14:00 パウロ年開年ミサ(大阪カテドラル) 15:30 教会学校ホールミサ
6	日	年間第14主日	平和旬間写真展(20日まで)
11	金	聖ベネディクト修道院長	
12	土		14:30 教会学校 終業式
13	日	年間第15主日	10:15 小教区評議会 14:00 聖体奉仕者研修会(神戸中央教会) 17:00 海星病院集会祭儀
15	火	聖ボナベントゥラ司教教会博士	
17	木		14:00 ベタニアの集い
20	日	年間第16主日	14:00 殉教者列福記念講演会
22	火	聖マリア(マグダラ)	
25	金	聖ヤコブ使徒	
26	土	聖マリアの両親 聖ヨアキムと聖アンナ	
27	日	年間第17主日	10:30 壮年会・婦人会合同例会 17:00 海星病院 集会祭儀
28	月		11:00 ベビーとママの集い
29	火	聖マルタ	
31	木	聖イグナチオ(ロヨラ)司祭	イエズス会創立者の記念日 (受付業務は午前中のみ)

広報部員のつぶやき

我が家の近くの川に今年も蛍が現れました。不順な天候の中でも、季節は移り変わっています。神様の教えを虫たちはきちんと守っているんですね。

少しずつではありますが、確実に皆様から投稿をいただけるようになりました。ありがとうございます。ただ紙面の関係で頂戴したその月に載せることができないこともあります。どうぞご了承ください。今月も図書紹介はじめいくつかの原稿は来月以降の掲載となりました。それでも懲りずに「信徒の教会づくり」には今後の教会の姿を、「みんなの広場」には日々の暮らしの中での気付きや思いをお寄せ下さい。

ふ

<p>教会報8月号の発行は、8月3日(日)です。 編集会議は7月27日(日)です。 記事原稿は、7月20日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 発行責任者 桜井彦孝 神父 編 集 広 報 部</p>
---	---